

おおい町・町長 中塚 寛 様

## 申入書

新型コロナウイルス（以下、「新型ウイルス」と略）が蔓延し、その対策にご腐心、ご苦勞のことと拝察し、感謝申し上げます。

この「新型ウイルス」の感染は、原発施設にも拡がろうとしています。すでに、九州電力玄海原発の特定重大事故対処施設（いわゆるテロ対策施設）の建設工事関係者や、東京電力柏崎刈羽原発に勤務する東京電力社員から感染者が見つかっています。九州電力では、工事を一時中断し、請負業者の約 300 人を出勤停止にしています。

しかし、関西電力は、「新型ウイルス」の感染が全国に拡大している今でも、大飯原発 3、4 号機、高浜原発 4 号機の運転を続け、高浜原発や美浜原発では 45 年超えにもなろうとする老朽原発の再稼働準備工事を続けています。

おおい町長にお尋ねします。「新型ウイルス」蔓延の中で大飯原発が重大事故を起したら、どうなるとお考えですか？

集団避難のバスの中での、あるいは避難先で何カ月も何年も続く集団生活の中での「新型ウイルス」感染を防ぐことは至難です。大勢の感染者が出ます。医療崩壊が起こります。そのようにお考えになりませんか？

しかも、若狭の原発から 100 km の圏内には福井県、京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県の多くの部分が含まれます。福島原発事故では、事故炉から 50 km 以上離れた飯舘村も全村避難になったことを考えあわせると、若狭の原発が重大事故を起せば、これらの地域が避難対象になる可能性もあります。例えば、大飯原発から約 30～70 km に位置する京都市が避難対象になれば、市民約 150 万人が放射線被曝に加えて「新型ウイルス」感染の危機にさらされます。それでも関電は、稼働中の原発を停止させていません。

一方、「新型ウイルス」感染が原発内に拡がったらどうなるのでしょうか？

原発では、通常運転時で 1500 人規模、定期点検時には約 3000 人の作業員が働き、通勤時のバスの中、作業前後の放射線測定のための待機場所、脱衣所、中央制御室を含む勤務場所、休憩室などで「密閉、密集、密接（3 蜜）」の環境にさらされます。大飯原発の作業員の中には、関西など「新型ウイルス」が猛威を振るう地域から来る人も多数います。大飯原発は、1 班 14 人で構成する 5 つの班

が1日3交代で運転していますが、感染者が出た場合、当該シフトの運転員のみならず、他のシフトの運転員も濃厚接触となり、5班体制の維持が困難になります。

感染発生のために、原発を停止させたとしても、停止後も冷却や安全管理のために専門的な知識や技術を有する作業員が多数必要です。その人々の間に「新型ウイルス」が蔓延するような事態になれば、原発の安全が保たれなくなります。

ところで、昨年9月に発覚した原発マネーに関する関電の不祥事は、関電には、企業倫理を大切に、法令を遵守する意識が欠落していることを明らかにしています。この不祥事は、脱原発・反原発の民意を蹂躪して危険極まりない原発を推進する過程で生じたものです。関電は、この不祥事後、役員人事を刷新したとしていますが、新役員が、真に信頼回復に努めるのであれば、不祥事の原因となった原発の稼働や再稼働準備工事を一端中止して、原発稼働の是非を再考すべきです。

「新型ウイルス」蔓延の中でも原発の運転や老朽原発再稼働準備工事を継続し、人身事故や配管破損などのトラブルを多発させている（とくに、高浜原発で）関電が、原発マネー不祥事を反省しているとは考えられず、原発の安全運転を保証する体制にあるとは考えられません。

以上のような視点に立って、私たちは、おおい町長に以下を申入れます。

- ① 「新型ウイルス」の感染拡大の中でも運転中の大飯原発3、4号機の即時停止を求めてください。
- ② 原発マネー不祥事によって、原発は、事の善悪を判断する能力を持たず、法令遵守を徹底する機能と資質を持ち合わせていない関電によって推進されたことが明らかになった今、おおい町が今までに行った原発の運転や再稼働に関する同意を御破算にして、重大事故を起しかねず、何万年もの保管を要する使用済み核燃料を残す原発を稼働させることの是非について再審議してください。

よろしく申し上げます。

2020年4月29日

「老朽原発うごかすな！大集会 in おおさか」実行委員会  
(連絡先；木原壯林 090-1965-7102)